

議会だより

第94号

発行日：平成26年2月1日

わき



「思いを一字に」小学生の卒業記念制作

目次

12月定例会

蜂ヶ峯の警察官用町営住宅は治安維持が目的
原発ゼロの日本を目指す意見書を可決 2

委員会ナウNOW

老朽化した下水道管の維持管理は 3

視察研修報告

『和木町だからできること』を求めて 4・5

町政ここが知りたい〈一般質問〉

8人が町政を問う 6～9

まちのいきいきグループ紹介

「しらうお石鹸づくり」グループ

クローズアップ和木

編集後記 10

12月
定例会

蜂ヶ峯の警察官用住宅は治安維持が目的

12月定例会は、12月11日から20日までの10日間の会期で開かれました。

議会は25年度の補正予算4件、蜂ヶ峯の警察官用住宅の管理条例、和木駅の指定管理者の指定同意、簡易水道や下水道の料金改定条例など10件の議案を審議し、すべて全員賛成で可決しました。また、警察官用住宅の条例案と和木駅の指定管理者については、総務文教委員会に付託され、活発な質疑ののち委員会は全員賛成で可決しました。

一般質問では8名の議員が登壇し、町政のさまざまな問題を議論しました。最終日には「原発ゼロ」の日本を目指す意見書案が提出され、賛成多数で採択されました。

*町営蜂ヶ峯住宅管理条例
(警察官用住宅の管理条例)

蜂ヶ峯団地の未売却地3区画に、岩国警察署の警察官用の住宅を建設し、和木町の町営住宅として管理する事業です。用地代を含めた費用は、約8250万円です。住宅は木造平屋建、間取りは3LDK、家賃は55,000円で、警察官家族の入居が条件です。警察官用住宅の設置は公園一帯の治安維持が目的で、運営規定については町長と岩国署長が覚書を交して行います。この条例には多くの疑問点が出され、総務文教委員会に付託されました。

*和木駅の指定管理者に
不二ビルサービス

和木駅の1階、2階の交流プラザと駅駐輪場の

*簡易水道及び公共下水道料金の一部改正条例

管理運営を、㈱不二ビルサービスに指定管理者として委託することに同意する議案です。期間は26年4月1日から3年間で、事業者の管理能力や施設の効率的運用、危機管理能力などを選定委員会で精査した結果、不二ビルサービスが適切と判断されました。事業運営や販売促進に改善を求める意見が出ました。

*25年度一般会計に
1150万円の追加補正

小学校外構工事300万円、幼稚園設計200万円の余剰500万円を「健やか安心基金積立金」に追加しました。子ども子育て支援事業に国からの補助金730万円が、他市町村への委託保育料が143万円追加補正されました。その他職員の給与調整などで、一般会計は1150万円の補正となりました。

4月1日からの消費税値上げに連動して、簡易水道料金と公共下水道料金が値上げされます。簡易水道では基本料金が420円(メーター口径13mm)から432円に、下水道料金は815円(一般家庭用10m)から838円に値上がりしま

す。料金は5・6月分より適用です。

*その他の補正予算

●簡易水道事業…瀬田浄水場の緊急修繕等が130万円追加
●公共下水道事業…大竹市の下水処理モニタリングに60万円
●介護保険…介護・支援サービス給付事業に1200万円追加等



7年目を迎える和木駅

原発ゼロの日本を目指す意見書
賛成多数で可決

原発推進を掲げる国のエネルギー基本計画素案に反対し、議員から原発ゼロを求めた意見書案が提出されました。反対討論ののち採決を行い、賛成8反対1で可決しました。採択された意見書は、安倍首相や山口県知事に送付されました。

意見書案
兼本信昌 議員

(概要)

福島第一原発事故では今も15万人以上が故郷に帰れず、苦しい避難生活を送っている。そんななか政府は原発を電力の重要電源と位置づけ、原発の再稼働を進め、新増設の可能性を含ませた。さらに上関原発から和木町は50km離れているが、事故が起されれば影響は少なくない。町議会として現在の原子力政策は看過できず、以下の要望をする。

1. 放射性廃棄物の最終処分方法が確立されない中での新増設は認められない。
2. 安全な原発は存在せず、重大事故を前提とする原発の再稼働は認められない。
3. 原発ゼロの日本を作るため、直ちに再生エネルギーの導入や火力発電の効率化に取り組む。

反対討論
野村邦光 議員

電力需要が拡大するなか、原発利用は圧倒的な国民の声に後押しされ、現在は48基が安全審査を経ての再登板を待っている。問題の使用済み核燃料の放射線は、自然界に戻るまで10万年必要と言われているが、科学技術の進歩で300年から8000年の幅に短縮が可能になっている。

再生可能エネルギーは不安定で、原発の停止で火力発電の燃料費は増加し、日本経済は大きなハンデを背負っている。日本が進歩発展するために、産業を興し、より豊かな生活を未来に残すためには電力の確保が重要である。私は、輸出をふくめ、現在の原子力行政を支持する。日本が目指すのは、原発をコントロールできる国である。

総務文教委員会

蜂ヶ峯団地の警察官用住宅を集中審議

総務文教委員会は12月16日、委員会に付託された町営蜂ヶ峯住宅管理条例と、和木駅の指定管理者の指定同意の2件と、教育問題や人口対策について副町長や関係課長の出席を求め慎重な審査を行いました。

*蜂ヶ峯団地に警察官用住宅を作る目的は

問 町営住宅に警察官だけ入居させる目的は何か。空家になった場合や家賃滞納の対応はどうする。

答 蜂ヶ峯団地に警察官用住宅を建て、公園周辺の治安維持を目的にする。ヘリポート建設の時に自治会から警察官の入居要望が出た。警察官家族には地域のコミュニティに参加してもらい、治安維持に協力を願う。運営管理は、町長と警察署長で覚書を交し、空家や家賃滞納はないよう要請する。



利用されている駅駐輪場

*和木駅の管理は(株)不二ビルサービスが継続

問 事業者により交流プラザや駐輪場の管理は適正になされているのか。事務室のサービスに問題はないか。

答 交流プラザの使用は格安で利用する団体があり、本来に戻すことも大事故だ。駐輪場を駐車場に変えていくことは今後活用を考えていく。事業者に新しい提案を求めている。駅の賑わいをつくる努力をしてもらう。事務室に職員が常駐すること、新幹線の切符販売も赤字になるため難しい。不二ビルサービスには指定管理者として利益が上がる工夫をしてもらう。

問 和木のいじめや不登校の状況は

答 24年度の不登校は小学校3件、中学校5件、いじめは小学校13件、中学校6件ですべて年度内に解決している。今年度の不登校は小学校0件、中学校2件、いじめは小学校0件、中学校1件と本町は減少している。全国的には上昇傾向にあるので、減少に努力する。

問 人口増を見込んだ施策は

答 山口県全体を見たとき、和木町は減少率が低い。今後は引込み線活用や、子育て共働き世代に住みやすい明確なビジョンを出すことや、商工会で本町のアピールを考えたい。

民生建設委員会

多くの懸案事項を審議しました。

民生建設委員会は12月17日、副町長や担当課長の出席のもと多くの懸案事項を審議しました。

*老朽化した下水道管の維持管理が待ったなし

問 和木5丁目の下水道管の破損はどうなった。

答 下水道管の工事は終了した。5丁目の下水道は昭和44年に着手され、44年が経過した。50年が耐用年数で、5年計画で準備し補修する。管が破損する前に樹脂系の管を挿入するライニング工法になる。

問 12月9日に発生した小瀬川の下水道管の破損について詳細を聞きたい。汚水や雨水が小瀬川に流出しているが、緊急的な対策はどうか。

答 公共下水道管は直径40cmの鉄製で、昭和48年に敷設し、小瀬川の川底3mを大竹の下水処理場まで横断している。和木側のポンプ場から圧送した下水が大竹側に届かず異常が確認された。現

在は送水を止め、ポンプ場内の雨水槽で塩素処理して表面水を常時放流している。仮復旧に全力を挙げ、その後に新たな下水管を敷設する。

*防災無線の難聴地区への対応は

問 防災無線の聞こえない地区がある。災害情報を受信できずに逃げ遅れる可能性があるのでは。

答 防災無線の音量調査は定期的に行い、難聴地区はないと考える。要望があれば向いて調査する。数年後にはアナログからデジタル方式になるので、個別受信機も含め研究課題だ。

*引込み線跡地の利用計画は

問 財務局との交渉経過はどうなっているか。協議委員会の構成は。

答 財務局が出す土地の鑑定評価が購買の基準になる。跡地は宅地や道路、公園を視野に計画するが、地域の課題も考慮に入れる。協議委員会は役場、



利用増に向けてキャンプ場の整備を

議会、自治連合会、各種団体、三井化学などで構成し、26年度に開催する。

*蜂ヶ峯公園の施設整備が必要

問 蜂ヶ峯公園の施設整備や人員補充が必要だが、計画はあるのか。

答 施設整備は計画的に行う。アスレチックやキャンプ場は見直す時期で、管理棟2階の歴史資料館はリニューアルする。職員の補充も行う。

『生きること』を求めて

らの町づくりに活かしていく！

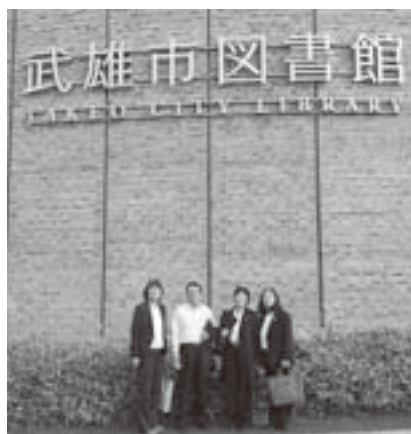
総務文教委員会

小中一貫教育への取組みと
フェイスブックの活用研修

総務文教委員会は11月6日～8日の3日間、熊本県御船町へ「議会活性化」「Facebookの運用」を、熊本県富合町へ「小中一貫教育」を目的に、また佐賀県武雄市へは武雄市立図書館の現状を視察研修しました。

通年議会とフェイスブックで開かれた議会

御船町は議会活性化として通年議会を導入し、定例会、常任委員会を毎月開催、議長は会議などで月に20日以上議会へ出席します。議会広報も月1回発行、議会モニター制度やあおぞら会議の開催など、町民に広く開かれた活発な議会です。



民間委託で成功した武雄市図書館

小中一貫教育の試みは

富合町は教育長や教育委員会の強力な方針のもと、教職員がその理念を総合的に理解した上で取り組んでいました。小学校の英語授業では、担任教諭の他に中学校の英語教師やA・L・Tが授業に参加し、生徒の英語への興味を上手に引き出しています。一貫教育に関わる方々の苦労と熱意が教室の隅々感じられ、印象深い授業風景でした。和木町でも、教育関係者の熱

意に期待したいと思います。

官設民営の成功例として

武雄市立図書館は、木造で天井も高く、建築として25年のグッドデザイン賞を受賞しました。ここは公共図書館でありながらコーヒーを飲めるという、これまでにないくつろぐ空間を提供しています。公共施設を民間委託による運営で成功した、新たな公共施設の姿だと感じました。

民生建設委員会

ドーナツ型のユニークなことも園と
胃がんリスク（A・B・C）検診研修

民生建設委員会は、10月29日新潟県南魚沼市の「浦佐認定こども園の運営状況」を、30日群馬県高崎市の「胃がんリスク（A・B・C）検診の取組み」を視察研修しました。

木の香りで子どもたちは元気づく

浦佐認定こども園の建物や環境が素晴らしいのに驚きました。園舎はドーナツ型のユニークなデザインで、地元木材の集成材をふんだんに使い耐震

強度を確保し、木造耐火建築物となっています。中央は屋外広場で陽光が差し込み、開放感があります。円形の廊下は120mで、「廊下は走れ」と子どもたちが雨や雪の日でも元気に走り回れます。保育室や廊下、壁がすべて木材で、木の香りが子供たちの情緒安定を促します。木質ベレットボイラーによる床暖房が、優しい環境を作っています。和木町の新園舎も木材の利用が望まれます。

胃がん検診の向上が必要

日本人のがん死亡率は胃がんが2位で、毎年5万人が亡くなります。高崎市は市医師会と協力して、平成23年度から胃がんリスク（A・B・C）検診と20歳のピロリ菌検査を開始しました。胃がんリスク（A・B・C）検診の利点は、早期がんの発見率がバリウム検診の約4倍で、しかも採血だけで診断できるため高齢者や身体的弱者には朗報といえます。和木町では医師会との連携はありませんが、木村医院が既に胃がんリスク（A・B・C）検診を実施しており、今後は行政と医療の協力が必要になります。



開放的な浦佐認定こども園

視察研修報告

『和木町だからで』

視察で学んだ成果を、これか

議会運営協議会

議会の災害対策要項と
フェイスブックの活用研修

議会運営協議会は11月14、15日で長崎県長与町の「災害支援対策本部」「議会 Facebook の運営」「議会基本条例」について視察研修を行いました。

災害時に議会は何をすべきか

長与町議会は、「議会災害支援要領」を施行し、災害対策支援本部の設置を決めました。

任務は、議員の安否確認、各議員への情報提供、被災地及び避難所等の調査を行い、必要に応じて国・県に要望するものです。議会は6月に災害対応訓練を実施し、災害意識の向上を図りました。自主防災意識が高まるなか、和木町議会も早急に検討する必要があります。

議会フェイスブックの活用は

長与町議会は開かれた議会を目指し、住民により多くの情報を伝えるため、Facebook の導入を決めました。Facebook



長与町議会の防災服

は双方方向の機能を活かせる利点があり、情報発信の手段として経費負担が少なく、重要性が極めて高いため、議会の導入で役場側も導入しました。和木町議会の情報発信手段は「議会だより」と「ホームページ」だけで、Facebook の活用で定例会の開催や会期日程、一般質問など議会の動向を瞬時に住民の方に伝えることができるため、積極的な導入を考えています。

議会基本条例は議会の必需品

議会は平成23年の無投票選挙を受け、住民に議会への関心を持ってもらい、議員の意識を高めなければ住民の理解は得られないとして「議会基本条例」を制定しました。定数も20名から16名に削減しました。議会災害対応要領も基本条例に盛り込み、一般質問はライブ中継放映にしました。「議会だより」は26ページの全面カラーと充実させ、開かれた議会として面目躍如でした。

民生建設委員会

公園弓道場の施設改修が望まれる



山口の弓道教室風景

民生建設委員会は、11月19日、田布施町弓道場と山口維新公園弓道場を視察研修しました。

田布施町弓道場は昭和62年に施工され、射場は10人立、射場横には審判席、役員控室が整備され、審査試験会場として指定を受けています。射場裏には男女控室と男女トイレ、湯沸し室と充実した施設整備があり、和木弓

広報委員会

広報力を
高めるために

広報委員会は、11月28日田布施町で開催された「町議会広報研修会」に参加しました。講師は広告デザイン会社の濱田泰氏で、広報力を高めるために必要なソーシャルメディアについて講演をされました。自治体では先進的な取り組みをしている武雄市の例を挙げ、Facebook の効果的活用を提案されました。議会広報にとっても Facebook は必要な発信媒体で、是非導



研修を受ける広報委員

入を考えたものです。その後、議会広報紙のクリニックが行われ、編集要領や紙面づくりの技術について学びました。

道場の改修を強く印象づけました。

山口維新公園弓道場は、山口国体の会場になった施設で、矢道は芝生張り、遠的場や観覧席を備えた立派な弓道場です。参考になったのは当日開催されていた弓道教室で、弓道愛好者を増やす方法として和木町でも取り入れたい良いと思いました。



⑥ 引込み線跡地の利用計画は

灰岡 裕美



都市建設課長 2年後をめどに進めたい



開発が予定される引き込み線跡地

議員 灰岡 6月議会での答弁（今後2年をめどに払下げに向けて具体的な検討を開始する）の後の経過を聞きたい。

都市建設課長 現在、検討委員会を設置するための準備を進めている。

議員 引込み線跡地の幅・全長・面積は。

課長 取得を検討している土地は1万2,300㎡程度、距離は約750m。幅は平均して16〜17m。

議員 検討委員会の具体的な説明を。

課長 平成26年1月中をめどに設置したい。事務局を都市建設課に置く。構成メンバーは、町・議会・工場・各種団体の代表者・地元代表等を考え、現在意見を聞いているところだ。

議員 課長が考えるこの地域の課題は。

課長 場所により違うと思うが、まず緊急車両が進入できるような道路整備が第一と考える。

議員 仮定の話ではあるが、和木町が土地を購入しない場合はどうなるか。

課長 最終判断は国になるが、民間への払下げも考えられる。和木町の将来の町づくりを考えて、まず行政が本気で考えることが重要だと考えている。

【その他の質問】
小中一貫教育の取組みについて

⑥ 学校図書に「はだしのゲン」は必要か

野村 邦光



教育長 子どもたちが自由に読める環境がいい



漫画「はだしのゲン」

議員 野村 松江市教委が漫画「はだしのゲン」の小中学での閲覧を制限（後に撤回）し、問題になった。和木中学校にもコミックのセットがある。どういう経緯で購入したか。

教育長 学校内の選定委員会を通して校長の責任で購入し、現在は子どもたちが自由に読めるようにしている。しかし、教育課程で扱うことはない。

議員 作品には残酷なシーンや「天皇は戦争犯罪人。君が代はその天皇をたたえる歌。わしは君が代は歌わん」など天皇制への批判があり、判断力の未熟な

児童生徒に読ませるのは問題だという指摘もある。

教育長 子どもたちに自由に読ませ、子どもたちが主体的に判断すべきだと思う。さまざまなイデオロギーがあるが、社会科などでは取り上げていない。自由に手に取れる環境をつくっている。

***下水管のメンテナンスが必要だ**

議員 12月9日、小瀬川河口を横断する下水管が破損した。経年劣化が原因と見られる。町内の下水管は30年から40年を経て大掛かりなメンテナンスが必要ではないか。

都市建設課長 昭和44年から12年かけて建設したが、老朽化が進んでいる。下水施設のポンプなどは計画的に順次更新している。これから5カ年計画を立て、財政部局と検討するが、財政負担の集中を防ぐため延命策にも力を入れる。

【その他の質問】
町長は町広報にどの程度関与するか

町民が集える体育ジムの設置を

小林 秀嘉



町長 体育センターの建替え時に検討する



体育センターにジム併設を

小林 議員 子どもたちや町民が集える場所として、ジムを作れないか。平成16年、20年と2度請願書を提出しており、足掛け10年近く経過している。当時はできないとの答弁だったが、現在どのように考えているか。

町長 体育センターを建替える際に、ジムの併設も検討したい。

議員 体を鍛え、健康長寿な町を目指すし、一度に町民が集える場所として作ってほしい。

副町長 箱物を作るだけでは意味がないので、費用対効果も考え合わせ、高齢者や子どもたちの活動の場所を確保することが必要であると思っている。

*避難誘導を
どのようにするか

議員 防災に強い町を目指す町長は公約したが、名簿が手に入らない状況でどのようにしていくのか。

町長 防災に強い町を作りたいと思っているが、現状は手をつけたばかりで、根本的な部分はまだまだ。

議員 高齢者災害時要援護者制度とは何か。

保健福祉課長 これは65才以上の1人暮らしの人、要介護認定を受けたい人など、災害時に避難支援を必要とする人を安全に地域ぐるみで助け合う制度だ。現在名簿の整備を行っている。

議員 災害時における備蓄の状態はどうか。

企画総務課長 各地区にすべて整備している訳ではない。毛布は各集会所に、消防車庫等には食料、毛布、保存水、救急箱、紙オムツ等が準備してある。自助、共助、公助が大事で、各家庭では3日分の備えをしていただきたい。



村田 良子

留守家庭教室の充実を

住民サービス課長 子育て会議でニーズを把握



建設中の放課後教室

村田 議員 留守家庭教室、いわゆる学童保育は保護者が安心して働き、子どもには安全でいきいきとした生活を送って欲しいという願いからスタートした。子どもの緊急時の連絡と対応は。

住民サービス課長 指導員には消防や警察、病院などの電話番号を記載したものを渡し、事故が発生した場合、住民サービス課の職員も対応する。緊急連絡網が充分發揮できるように随時点検し、指導員と相談しながら災害対応マニュアルを整備したい。

議員 現在90人近い児童を4人の指導員が保育している。全国学童保育連絡協議会の運営基準では児童30人までは指導員2人以上、40人までを3人としている。この基準で考えると和木の場合6人が妥当と考える。現状をどう思うか。

課長 基準は同協議会のもので、国からはまだ示されていない。27年4月施行の子育て支援法により基準が示される予定だ。

議員 町子ども子育て会議が発足した。その構成と目的はなにか。

課長 子育て支援法の公布で地方自治体には地方版子ども子育て会議を設置するよう努力義務が課された。保護者、幼稚園、保育所、小学校の長などで構成し1回目の会合を持った。アンケートにより保護者のニーズ等を調査したので、これをもとに2月に2回目を開く。その後、「子ども子育て支援計画」の内容を審議していく。

障害者雇用は守られているか

上岡 孝光



企画総務課長 充分ではないが責務は果たしている



八幡山公園の草スキー場跡地

上岡 議員 本年4月から法定雇用率が2.3%に引き上げられたが、和木町は守っているか。

企画総務課長 2.3%を下回っているが、障害者雇用率による不足数は0だ。充分だとは思っていないが、地方自治体の責務は果たしたい。

議員 法に適正な人事管理を行っていただきたい。

***防災倉庫の整備が必要では**

議員 非常用備品は何を保管しているのか。

課長 集会所に毛布480枚、山の手機材倉庫に食糧アルフ

ア米250食品、ペットボトル2ℓを186本、車庫にランタン、救急箱、ブルーシートだ。

議員 河川の氾濫があれば浸水し非常用備品も役目を果たさないで、草スキー場に防災備品や非常用備品を一括して保管できる適当な防災倉庫を建設できないか。

町長 これだけの量で町民全員に行き渡るわけがないので、自助の部分で食糧、水3日分を用意してもらいたい。倉庫は法的なことや車の進入路が必要、災害に対して一つひとつ対処して総合的に考えていくので考慮していきたい。

***廃食油の利用を**

議員 最近民間や自

住民サービスク 町でやるには集める量にも問題がある。再生装置だけなら問題ないが、純度の高い燃料にするにはいくつかの処理が必要となり、町独自では難しい。



兼本 信昌

弓道を和木町の支援スポーツに

教育長 「わが町スポーツ」はウオーキングに決定



改修が望まれる弓道場

兼本 議員 和木弓道部は地味ながら活動は盛んである。しかし、昭和62年建設の和木弓道場は老朽化が目立ち、施設の改修が望まれる。近辺には充実した公的弓道場がなく、弓道で和木町を盛り上げる良い機会だ。弓道を和木町の町スポーツにして、交流人口を増やすべきだ。

都市建設課長 老朽化した弓道場の維持管理や修繕は必要だ。施設改修については予算の関係もあるが、利用者の意見を聞きながら適切な修理や改善に努めたい。

教育長 弓道は町にとり伝統があり、特色に値するスポーツだ。体育関係者は今年度「わが町スポーツ」にウオーキングを選んだが、弓道へは可能な範囲で支援をしたい。

***多様な奨学金で人材育成を**

議員 和木町は中学や医療費の無料と手厚い保護があるが、中学卒業を期に町を離れる家庭もある。高校、大学と長く居住をしてもらうため、入学奨学金や留学奨学金、給付型奨学金の新設を提案する。

教育長 入学奨学金は前例がなく難しい。今後は基金が不足し財政措置が必要で、新規の奨学金は難しい。

町長 英語教育にしっかりと取り組む金制度などは検討したい。現在の国際交流事業も、対象を高校生や大学生を視野に入れるなど幅広い視野で考えたい。

【その他の質問】
26年度の予算編成について

役場内のレイアウトを明るくすべき

森脇 明美



町長 入りやすい環境づくりにつとめる



入りやすさが求められる役場内入口

森脇 議員 町民の方より、役場に対して「入りにくい」「威圧感を感じる」などの声がある。

先日視察した町の庁舎は、入りやすい雰囲気、入口に総合案内が設けられ、訪れた方の要件に即座に対応されていた。庁舎内にはベビーベッドや、幼い子が遊べるコーナーも設けられていた。

税務課では、相談窓口にパーテーションがあり、相談に来られた方への配慮もうかがえた。

本町でも、短期間で実施できる具体的な対策案はないか。

町長 早期に着手できるものから実施していく、多額の費用を要するものについては実施の可否を検討していきたい。

***防災のために新しい課の増設が必要では**

議員 企画総務課の庶務・消防係は、防災関係だけでなく、給与・共済・秘書・消防・電算・交通安全等を受け持っている。先日、小瀬川を横断する下水道管が破損した。また町内下水道も修理の時期がきている。現在の都市建設課の業務で対策可能なのか。各課で防災に関して、連携はどうか。それらの対策は、防災に力を入れた課か係の増設は考えられないか。

町長 各職場の人員は適正か、各職場の事務分掌を変更、また機構改革の必要性についても検討したい。

【その他の質問】 和木町の情報収集と保存、和木町路線バスを和木5丁目への延長

高齢者向け住宅が必要では

上岡 富士夫



都市建設課長 町営住宅の長寿命化計画のなかで検討する



高齢者にやさしい用作団地

上岡 議員 和木町営住宅の現状はどうか。

都市建設課長 町営住宅は老朽化しており、建替えを検討していかなくてはならない住宅が175戸ある。したがって計画的な建替えをしていく必要がある。高齢者世帯の状況は277世帯である。

議員 高齢者向けの住宅が必要ではないか。

課長 町営住宅の長寿命化計画を現

在作成中である。今後は、この計画を基本に計画的な建替えを実施する予定で進めている。無理のないスムーズな建替えを推進するために比較的家賃の低い高齢者向けの住宅の建設は必要であると考え。

議員 子育て世代と高齢者が共存する住宅政策が必要ではないか。

課長 住宅管理上の課題として、世帯人数が減少し、そのまま広い住宅に住んでいるのが現状である。子育て世帯から高齢者世帯まで、それぞれのニーズに対応できる良質な住宅の供給が必要である。今後検討する。

議員 今後の本町の住宅対策は。

町長 和木町の公営住宅率は全国でもトップである。戸数や間取り、大きさ等々これからのニーズを考えしっかりと検討し、有効活用していくことが、住宅対策にとって最も重要なことと認識している。

まちのいきいきグループ紹介

今回は廃油を回収し、『しらうお石鹸』を作り販売されている「和木町生活学校」を訪問しました。

■「和木町生活学校」の成りたちは

藤本亮恵会長：昭和49年に木村八重子さんが中心になって活動を始め、その後生活学校が引継いで現在の形になりました。

■活動の現状を教えてください

会長：会員は現在6名です。町内各所で回収した廃油を使い、しらうお石鹸を作製、販売しています。活動は月に4回（制作・仕上げ作業）です。一度に280個作るのに560個制作します。廃油回収は、コミュニティセンター・役場入口・生活学校で行っています。販売は、町内外各所（コミュニティセンター・ハッチの家・文化会館・由宇町の潮風公園・玖珂町生改連の朝市等）で行っています。

■売れ行きはどうですか

会長：お陰さまで評判が良いです。売上はすべて、必要な物品購入に充てています。

■皆さんにお伝えしたいことは

会長：回収したすべての廃油から石鹸を作ることには難しいです。あ



「しらうお石鹸づくり」のメンバー

■和木町に要望は

会長：旧小学校の体育館裏の消防車庫からここ前山の麓にきました。できればもう少し便利で明るい場所に移りたいです。機械がうるさいので住宅地は無理でも、皆さんが集えるような場所があれば良いです。

クローズアップ和木

あそこはどうなったん？

町営住宅を治安維持のため警察官用住宅に

現在、蜂ヶ峯団地に町営住宅を建設中です。3月末完成予定で4月より入居が可能となります。町営住宅は、平屋造りの住宅で3軒あり、家賃は1軒当たり5万5千円で、間取りは3LDKとなっています。

岩国署管内の警察官の家族の方に入っていただくことになっており、これによって地域の治安維持が守られます。



完成間近の警察官用町営住宅

編集後記

今議会が開催される直前に、公共下水道管が破損し、大竹市の終末処理場への送水が現在も停止している。さらに議会開催中には関ヶ浜地区の簡易水道本管が破裂し、関ヶ浜の一部地区が終日断水を余儀なくされた。いずれも原因は、昭和40年代に敷設された管の老朽化である。

議会ではこのような事態を予想し、一般質問や委員会等で町に問題を喚起してきた。上下水道管の老朽化問題は、今後町内だけでなく国内各地で頻発することが危惧される。和木町としても、今後は財政面を考慮しながら、長期計画をしっかりと立てて点検補修作業を進めていく必要があるだろう。

これからの和木町で優先すべきことは、町内のインフラ整備であり市民の安全の確保である。さまざまな手段や方法を検討し、計画的に着実に進めていかなければならないと思う。

平成26年度の予算についても、議会ですっかり審議しなければならぬと、決意を新たにしている。

(灰岡)

広報委員会

委員長

兼 本 信 昌

副委員長

小 林 秀 嘉

委員

森 脇 明 美
灰 岡 裕 美